

## スター交通との「災害時におけるバス及び 民間救急サービス利用に関する協定」締結式

3月26日、大泉町にあるスター交通様と「災害時におけるバス及び民間救急サービス利用に関する協定」を締結いたしました。



(右から2番目が「スター交通 碓氷社長」)

近年、地球温暖化や地球の地殻活動期の影響により、連日のように災害の話題がテレビ・新聞を賑わしております。日本列島はいつ、どこで何が起きるか分からない状態です。

また、昨年10月には台風19号が関東地方に上

陸しました。明和町におきまして、町が始まって以来初となる避難指示を町内全域に出し、町民の約4分の1の方々が避難されました。今後、このような災害時の自主避難は避けて通れないものとして、広域避難の重要性や要支援者の避難体制が課題となります。

このような状況の中、スター交通の碓氷社長には、仕事が大変お忙しい中お越しいただきました。今回の協定が締結できましたこと、町民を代表いたしまして心から感謝を申し上げます。今回の協定で、同社には、災害時において事前に広域での移動避難をする場合や要援護者の広域移動時に、バス或いは民間救急車をご提供いただけることとなります。

また、碓氷社長は、同社の前身となるグループ会社のワールドツアーズという会社も立ち上げており、観光チケットの販売や観光案内も行い、世界各地を飛び回っている敏腕社長です。その敏腕社長がおっしゃるに、同社が民間救急事業を始めるときには、救急車ごっこのお遊びとしか見てもらえなかったそうです。

しかし、民間救急車を導入してから苦節10年、今や年間出動回数300回を超える成長産業へと育て上げました。



(スター交通 民間救急車)

そしてなんと、先日、新型コロナウイルスの集団感染が起きた大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」でも、同社は要請を受けて、バスを出動させ多くの乗客の搬送を手助けされたとのことです。

そのときの記事が以下のとおりです。

# クルーズ船から 82 人を安全搬送

## 大泉町のスター交通

[3/28(土) 上毛新聞より]

新型コロナウイルスの集団感染が発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」。貸し切りバスと民間救急事業を手掛ける群馬県のスター交通（大泉町坂田、碓氷浩敬社長）は、スタッフ2人と大型バスを派遣し、感染者を各地の病院に安全に搬送した。

### 《仕切りや消毒 入念に 感染者 1 割以上送る》

同社は 2011 年設立。民間救急事業では転院患者など緊急性の低い傷病者を搬送し、実績を上げた。

厚生労働省によると、同船には横浜港入港時に 3000 人以上が乗船。PCR 検査で陽性となり、症状は軽いものの入院の必要な感染者が 603 人おり、同社はこの人たちを搬送した。

民間救急事業者で組織する一般社団法人全民救患者搬送協会を經由し、神奈川県から協力要請があったのは 2 月 9 日夕方。患者搬送適任証取得者の新井康弘専務が翌日午前 9 時に 53 人乗りのバスで駆け付けた。

現地では運転席と客席の間をビニールシートで

仕切り、防護服を着用して搬送。座席間隔を離し、乗降の度に車内を消毒した。その後、同僚の新島敏秋さんが合流し、2人は同月26日まで従事。10人以上の感染者を一度に搬送できるバスは重宝され、中部地方や近畿地方の病院を巡り、船内感染者の1割以上に当たる82人を搬送した。

新井専務は「今後も各地からの協力要請に応えていく」と決意。新島さんは「万が一の際に役に立てるよう、訓練を重ねたい」と話した。



(ダイヤモンド・プリンセス)

とあります。

本当に社会的使命を果たしている会社で、群馬県が自慢できる会社です。

その碓氷社長が「事業量が増えれば増えるほど、個人の会社へ債務保証が増え、結局、社長個人の借金ばかりが増えてしまうことが悩みの1つ」とおっしゃっておりました。私も「会社の運営には誰もが出資、借金、税金との戦いです」と自身の経験を話させていただきました。会社の経営者は本当に大変です。

また、本町においては、自主防災の育成強化など「安全で安心なまちづくり」のために、ソフトとハードの両面で充実できるよう取り組んでいるところです。これまでに様々な災害協定の締結、備蓄食料や防災資材の充実、防災拠点や防災無線の整備、また洪水ハザードマップの配布等を行ってきましたが、今回の協定は初めてのジャンルです。

今後とも、スター交通様と日頃から連携を密にし、有事の際には、是非お力をお借りしたいと考えております。

令和2年4月10日

明和町長 富塚もとすけ